

## 戦中から戦後へ

### 太平洋戦争中から戦後

新宿区域は、都心の西に続く地域として防衛上重要で、交通も便利であることから陸軍関係の施設が作られました。多くは江戸時代の大名屋敷の跡を利用しています。

#### 新宿区内の主な陸軍関係施設

##### 〈官庁〉

大本営陸軍部・陸軍省・参謀本部・教育総監部・  
陸軍航空本部・陸軍機甲本部・陸軍航空総監部・  
(現防衛省 市谷本村町)

##### 〈学校〉

陸軍士官学校・陸軍予科士官学校 (市谷本村町)  
東京陸軍幼年学校・陸軍戸山学校 (戸山町)  
陸軍軍医学校 (戸山町)

##### 〈部隊〉

近衛騎兵連隊 (戸山町)  
戸山ヶ原射撃場 (大久保町)



早稲田付近とされている焼跡

### 空襲

太平洋戦争が始まって4ヶ月後の昭和17年(1942)4月18日、日本は初めてアメリカ軍の空襲を受けました。東京に飛来したアメリカ軍機は、新宿区域の早稲田地区に焼夷弾を落としました。この時中学生1人が死亡しています。昭和19年(1944)7月、アメリカ軍のサイパン島上陸以降はアメリカ軍機による日本への空襲が激しくなってきました。特に昭和20年(1945)4月13日、5月24～25日の空襲では新宿区域で5万5千あまりの家屋が焼失しました。この時の犠牲者の詳しい数はわかりませんが、同年3月10日の東京大空襲では約11万5千人の死者が出ていることから、相当数の犠牲者が出たと考えられます。

### 戦後

昭和20年(1945)8月14日のポツダム宣言受諾により太平洋戦争は終わりました。新宿区域は80%が焼け野原になっていましたが、新宿駅周辺にはすぐに露店のフリーマーケット(闇市)が立ち並び、人々は食糧、生活必需品を求めて殺到しました。東京で一番早く出現した闇市は、新宿駅東口の尾津組のものだといわれています。

角筈北町会(現・歌舞伎町)の町会長だった鈴木喜兵衛は、焼け野原になった町を健全な娯楽街とすることを目指し、街を整理しました。それが現在東洋一の繁華街といわれる歌舞伎町です。

進駐してきた連合軍は東京有楽町に総司令部(GHQ)を設置し、大本営陸軍部などがあった市谷本村町の陸軍施設、伊勢丹デパートなども接収しました。市谷本村町では極東軍事裁判も行われました。

昭和22年(1947)3月15日には、東京都内のそれまでの35区が22区(のち23区)に整理されました。その際、牛込区、四谷区、淀橋区の3区が統合し新宿区が誕生しました。

東京オリンピックが開催された昭和39年(1964)は新宿区も大きく発展しました。新宿駅周辺が大きく変貌し、駅西口は巨大なターミナルとなり、大手デパートが建てられたのもこの時です。

昭和40年(1965)に新宿駅西口にあった淀橋浄水場が移転すると、その跡地には新宿副都心計画により、京王プラザビルを皮切りに高層ビルが次々と建設され、日本のスカイスクレーパーが現れました。平成3年(1991)には東京都庁が千代田区からこの場所に移転しました。新宿はまさに東京の中心といえるでしょう。